



仙台防災未来フォーラム2021

— 東日本大震災から10年 よりよい未来のために —

# 東日本大震災から10年 復興施策の評価と 次の10年への展望

総括担当 今村文彦



- **テーマ;**
- 2021年3月11日、東日本大震災の発災から10年
- 未曾有の大災害から今日に至るまで、ともに歩んできた復旧と復興の取り組み
- 行政施策・市民 の観点から振り返り評価する
- 次の10年、仙台防災枠組へのさらなる貢献
- 私たちの得た経験と教訓をどう生かし、
- 新たに想定される災害にどう備え、また国内外の防災・減災へどのように協力できるか

セッション1: 住まいとインフラの復旧・復興

セッション2: 伝承・経験を次の世代へ

セッション3: 震災に学んだ災害対応、地域から全国・世界へ  
総括

# 震災復興計画

## 震災復興計画 2011年－2015年（5カ年）

長期的視点で  
取り組むべき課題  
（心のケア・教育・伝承 等）

### 復興に向けた4つの方向性

- 1 減災を基本とする防災の再構築
- 2 エネルギー課題等への対応
- 3 自助・自立と協働支え合いによる復興
- 4 東北復興の力となる経済・都市活力の創造



2019.5 仙台市まちづくり政策局防災環境都市・震災復興室

# セッション1： 住まいとインフラの復旧・復興

- 宮城県内の沿岸部におけるインフラ復旧、防潮堤、河川、道路等の整備、集団移転等のこれまでの取組みと現状及び今後の課題、復興後における地域インフラのあり方について語り合います。
- ファシリテーター 平野 勝也 東北大学災害科学国際研究所 准教授
- 登壇者
  - 佐瀬 健一 復興庁インフラ構築班 参事官補佐
  - 亀井 督悦 国土交通省東北地方整備局企画部 震災対策調整官
  - 山田 智志 宮城県土木部復興まちづくり推進室 室長
  - 横田 修 仙台市都市整備局復興まちづくり課 東部再生担当課長

# 主な議論・提言

- これまでの復旧の取組みと成果
    - 事業総量を考えれば10年でよくここまで進捗できた
      - 応援職員，財政支援，制度支援，事業促進PPPやCM方式
  - 現状まだ積み残していることや残った課題、今後の取組み
    - 適切な維持管理・長寿命化
    - 移転元地の利活用（モザイク状民地）
    - 緊急対応の担い手となる地元建設業の維持
  - 復旧・復興後の地域インフラの将来
    - 公共土木施設の適切な維持管理・長寿命化
    - 公共土木施設と一体となった魅力づくり
- 「よりよいインフラ」「よりよい復興」

# セッション2: 伝承・経験を次の世代へ

- 東日本大震災の経験を継承し、災害に備える必要性について、被災地として次の世代と国内外へメッセージを発信していくこと、風化が進んでいく中での取組みと現状を共有しながら、この先どうあるべきか、語り合います。
- ファシリテーター 佐藤 翔輔 東北大学災害科学国際研究所 准教授
- 登壇者
  - 大内 幸子 仙台市地域防災リーダー
  - 若生 彩 仙台市地域防災リーダー
  - 佐藤 正実 3.11オモイデアーカイブ 代表
  - 山崎 麻里子 一般財団法人3.11伝承ロード推進機構
  - 大庭 豪樹 宮城県震災復興・企画部 参事兼震災復興推進課長
  - 佐藤 裕大 仙台市まちづくり政策局防災環境都市・震災復興室  
震災復興・メモリアル事業担当課長

# 主な議論・提言

- この10年**どういった取り組み**をしてきたか、**何を生んだ**か
  - **地域・学校が一体**となった教訓継承・実践的な防災活動(「防災」だけでなく、地域の活力にも)
  - **市民参加型**の復興過程のアーカイビング, 3.11前の記憶の掘り起こし
  - 震災伝承施設の**広域的なネットワーク**の形成(ハードだけでなくソフトも)
  - 県内外への「**いま**」の発信(いまでも東日本大震災)
  - 学び合いを通じた**担い手人材**の育成
  - **震災遺構**の整備, **記録紙**の編纂, **職員間の経験継承**(経験をのこす, ひきつぐ)
- 10年**振り返って感じていること**、**課題**と**思っていること**
  - **支援**することが、**継承**につながる。
  - 風化はする, 劣化はさせてはいけない, 「**使いつづける**」を通じた活きた記憶・アーカイブに
  - **未経験者**(子ども, 転入者)の増加 と 被災経験者や語り部の**高齢化**
  - **他の災害・被災地で**, **教訓が活かされていない**
  - 「**復興過程**」の部分の不足
  - 災害は, 東日本大震災**だけでない**, 台風19号もコロナ禍の対応も
- 今後**こういうことがしたい**、**こうなったらいい**と**思っていること**
  - **楽しく学べる機会**(音楽なども), 女性防災リーダーの増加
  - 災害学習の**生涯学習化**, **ノンフィクション**も必要
  - **誰もが語り**、**知る**ことのできる場づくり
  - 学習ニーズと現場の**マッチング**(コーディネート)
  - **災害文化**を創造・発信する**中心部震災メモリアル拠点**の整備

ともにかかわりながら  
次のニーズ  
それが新たな継続性  
30年, 100年, 1000年に

# セッション3： 震災に学んだ 災害対応、地域から全国・世界へ

- 東日本大震災から学び、生かしてきた災害対応体制の強化の取り組みと他都市への災害派遣について共有し、そこから得た新たな経験とノウハウの蓄積をもって新たなリスクにどう対応していくか、国内外に貢献していくためにできることについて語り合います。
- ファシリテーター 丸谷 浩明 東北大学災害科学国際研究所 副  
所長・教授
- 登壇者
  - 坂本 克好 陸上自衛隊 第6師団司令部第3部長
  - 高橋 英人 東北電力ネットワーク株式会社 宮城支社長
  - 千葉 章 宮城県総務部 危機管理監
  - 田脇 正一 仙台市危機管理室 参事兼防災計画課長

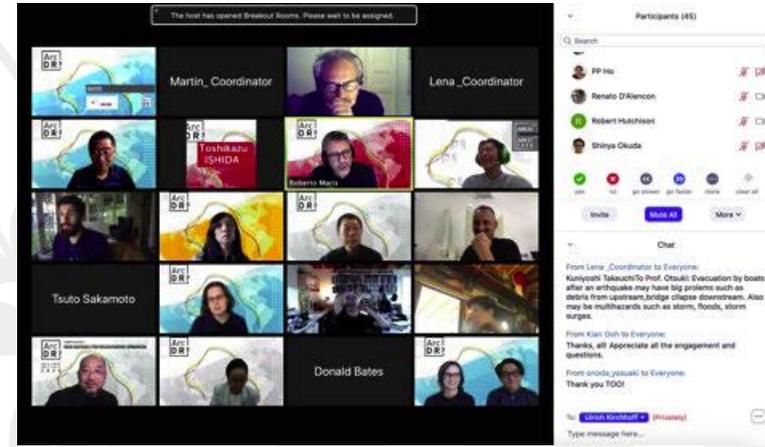
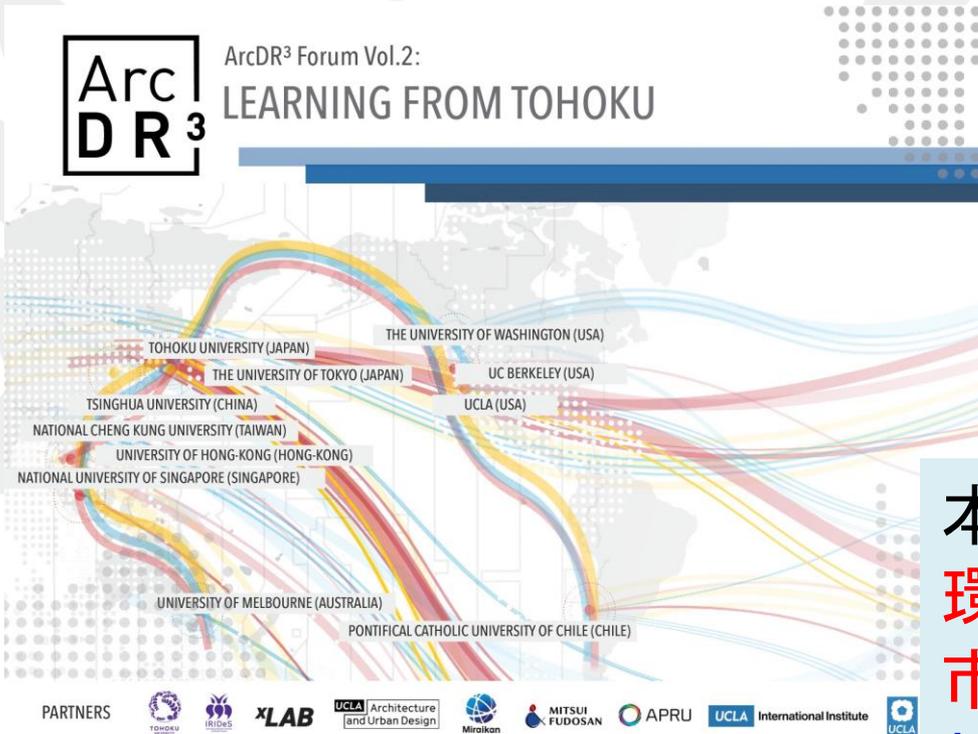
# 主な議論・提言

- 東日本大震災における救援・復旧等の教訓を、宮城県、仙台市、自衛隊、東北電力などの各組織は多くを学んだ。その教訓には、失敗や苦労も含まれていた。
- この教訓は、その後の10年間に発生した大災害における、人的・物的・技術的な広域支援活動において活かされ、被災地からも感謝をされてきた。
- 大規模災害は地域ごとに見ればめったに発生しないため、被災地地元はほとんど初めての経験である。そこに、災害対応経験のある組織の広域支援は、非常に有効なものであった。
- 今後とも、東日本大震災の被災地の組織は、東日本大震災で受けた支援のお返しとしても、内外の大災害発生時の広域支援に積極的に対応することが望まれる。また、大震災の被災地の方々も、そのような活動に理解と応援をしていくことが望まれる。
- ただし、10年前の東日本大震災の対応経験は、現在では前提となる経済社会環境や制度の変化もあるので、新たな災害対応の学びも必要であり、被災地支援をしながら人材を育成し、訓練を繰り返し、また、あらたな機材の開発なども行い、継続的に能力を高めていく姿勢を続けることが大切である。
- これらの取組の経験は既に国際的にも発信されているが、今後それを強化することは十分可能である。

# 主な議論・提言

- 東日本大震災における救援・復旧の教訓を、宮城県、仙台市、自衛隊、東北電力などの組織は学んだ。その教訓には、**失敗や苦労**も多く含まれていた。
- この教訓は、その後に発生した大災害における**広域支援活動において活かされ、被災地から感謝をされてきた。**
- 大規模災害は地域ごとにみればめったに発生しないため、被災地地元は**ほとんど初めての経験である。**そこに、災害対応経験のある組織・人材の広域支援は、非常に有効なものである。
- 今後とも、東日本大震災の被災地の組織・人材は、東日本大震災で受けた多大な支援のお返しとしても、内外の大災害発生時の広域支援に**積極的に対応することが望まれる。**
- ただし、10年前の東日本大震災の対応経験は、現在では前提となる経済社会環境や制度の変化もあるので、新たな災害対応の学びも必要であり、被災地支援をしながら**継続的に学ぶ姿勢も大切にしていくべきである。**

# 海外の皆さんとの議論からのアウトプット



本日 9-12 時まで同時開催  
環太平洋の大学等で建築・都市計画x 災害科学

ArcDR3 initiative founders

- 東北大学災害科学国際研究所
- UCLA
- 未来科学館
- 環太平洋大学機構APRU

## • パネル1：住宅とコミュニティの回復

- ✓ 歴史（人々がこの地域でどのように暮らしていたか）と将来のリスクを抱えてどのように生きているかが大切
- ✓ 高齢化社会の課題—日本だけでなく、台湾，韓国などが共有
- ✓ 災害は私たちの社会の新しい挑戦と新しい機会をもたらします（再考する時間、未来について考える時間）

## • パネル2：インフラストラクチャーの復旧

- ✓ ハード施設整備だけでなく、総合的対応が必要。さらに、災害対応と環境のバランスが重要
- ✓ インフラストラクチャーには、地域の歴史と集合的記憶に関連する物理的および心理的側面
- ✓ 防災・減災でのグリーンインフラストラクチャーの可能性

## • パネル3：災害と追悼

- ✓ 山元町中浜小の例と石巻市大川小での事例は、国際的な参加者に非常に関心を持ち、活発な議論になりました。
- ✓ 苦い経験だけでなく楽しい思い出や学んだ大切な思いを伝えることが大切

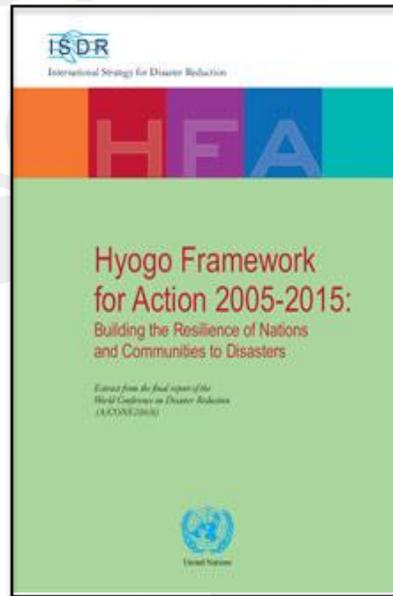
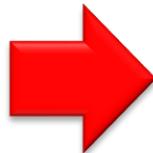
# 兵庫行動枠組から仙台防災枠組へHFA to SFDRR



**Yokohama Strategy and Plan of Action for a Safer World**

(May 1994 @ 1<sup>st</sup> WCDR)

**横浜戦略**  
防災について世界で  
関心を高めましょう



(Jan. 2005 @ 2<sup>nd</sup> WCDR in Kobe)

**兵庫行動枠組**防災・  
減災への行動を始め  
ましょう



(Mar. 2015 @ 3<sup>rd</sup> WCDR in Sendai)

**仙台防災枠組**  
防災・減災へ具体的な活  
動計画・実施へ、  
減災目標と指標



7 Global Targets of SFDRR are

	Reduce	Increase
7 GLOBAL TARGETS	<b>Mortality/</b> global population 2020-2030 Average vs. 2009-2013 Average	<b>Countries with national &amp; local DRR strategies</b> 2020 Value vs. 2015 Value
	<b>Affected people/</b> global population 2020-2030 Average vs. 2009-2013 Average	<b>International cooperation to developing countries</b> 2018 Value vs. 2013 Value
	<b>Economic loss/</b> global GDP 2020 Ratio vs. 2013 Ratio	<b>Availability and access to multi-hazard early warning systems &amp; disaster risk information and assessments</b> 2018 Value vs. 2013 Value
	<b>Damage to critical infrastructure &amp; disruption of basic services</b> 2020 Value vs. 2015 Value	



# 仙台防災枠組とSDGsの関係

## 仙台防災枠組 4つの優先行動

4 PRIORITIES FOR ACTION	<b>Priority 1 Understanding disaster risk</b> <i>Policies and practices for DRR should be based on an understanding of disaster risk in all its dimensions of vulnerability, capacity, exposure of persons and assets, hazard characteristics and the environment.</i>
	<b>Priority 2 Strengthening disaster risk governance to manage disaster risk</b> <i>Disaster risk governance at the national, regional and global levels is of great importance for an effective and efficient management of disaster risk.</i>
	<b>Priority 3 Investing in disaster risk reduction for resilience</b> <i>Public and private investment in DRR are essential to enhance the economic, social, health &amp; cultural resilience of persons, communities, countries, their assets, as well as environment</i>
	<b>Priority 4 Enhancing disaster preparedness for effective response, and to "Build Back Better" in recovery, rehabilitation and reconstruction</b> <i>Strengthened disaster preparedness for response, recovery, rehabilitation and reconstruction are critical to build back better</i>

関係性は？ 共通性は？  
どのように実施していくのか？

## SDGs 17ゴール



# 総括(1)

- 当時を振り返り、復興の施策について実施状況と課題を議論し評価を行った。組織、財源、制度との関連、地域および地域外との関連での議論も必要。
- 大震災からの復旧・復興への様々な関係者の尽力により災害に強いまちづくり(多重防御)が進められている。よりよいインフラ、よりよい復興が今後も必要。広域での複合的な被害は大きく、余震も含めて現在も影響が続いていることを意識しなければならない。
- 大震災の経験は大変に貴重であり教訓として整理し復興過程と伴にアーカイブする必要がある。ここでの知見は今後の国内外の防災・減災に役立つようさらに積極的に発信することが重要である。

# 総括(2)

- ただし、現在では、地球規模気候変動や大規模感染症拡大もあり、前提となる経済・社会環境や制度の変化も踏まえて、**新たな災害対応の学びも必要であり**、各地の被災地支援をしながら継続的に学ぶ姿勢も大切にしていっていきべきである。
- 「**仙台防災枠組**」には、4つの優先行動と7つのグローバルターゲットが示されており、これらの周知と実践を通して、**2030年の目標達成を目指して**、国際社会に貢献できる活動を継続して進めていく。
- **まとめ**;
- 防災・減災に加えて**環境配慮の視点を織り込み**、より良い復興(Build Back Better)を取り入れた「**まちづくり**」、コミュニティ防災を支える「**ひとづくり**」を推進し、経験や教訓を多くの人々と工夫して**未来へ伝えていく**。